

碎かれることもみこころ

アシェル・イントレータ

2014年9月19日



とても深い御言葉が、苦しみを受けるしもべとしてのメシア預言に見つけることができます。

イザヤ 53:10

「しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。」

「砕く」という語の語根はכָּרַסで、次の聖句の「bruised=打たれる」（欽定訳）と同じなのです。

イザヤ 53:5

「しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれ（打たれた）。」

なぜ、主の忠実な僕の魂を砕いたり、打ちのめすことが主のみこころになるのでしょうか。

救い主（メシア）の魂は「罪過のいけにえ」（10節）、そして「いのちを死に明け渡」（12節）すために造られました。彼は私たちの罪を清算するための過程で、苦悩を経験されたのです。

彼の純粋な魂が、私たちの罪の否定的さ、裏切り、憎しみといったものを吸収し、感じ取っていくようにされたのです。彼の魂が砕かれ、その痛みによって、私たちの魂が許され、清められることが可能となったのです。彼は御自身の魂が砕かれることを許しました。彼の感情は私たちによって砕かれ、彼のこころは私たち人間と接することにより傷つけられたのです。

魂が「碎かれること」が「罪過のいけにえ」となるということは理解が難しいのですが、義なる人が「碎かれること」はあがないの影響があります。しかし、ある人が砕かれた場合、その砕かれてしまった人には何もできないのです。それでは意味がありませんし、理解できません。

イエシュアは、彼が砕かれようとする時に、天の父を信頼するしかなく、彼の苦しみが他人への益になると信じるしかできませんでした。この現象は、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ、モーセ、ダビデ、エレミヤ、ペテロ、ヨハネやその他大勢の信仰の英雄たちにも見られます。砕かれた魂は、傲慢や情欲からも解放されています。砕かれた魂は一見、全く影響力がないように思えますが、神さまは、その砕かれた魂を、信仰と愛を握りしめた人として用い、彼を通して働かれます。

ここで主が「みこころであった=pleased/喜ばれた」ことを見て、勇気づけられます。神さまはサ

ト的ではありません。神さまが喜ばれるとき、それはもっと大きなみこころが達成されるということをご存じだということなのです。全てがうまく行かなくなっているように思え、痛みを感じている時でも、主が私たちを喜ばれていることを知ると、慰めを感じます。私たちが経験していることから、何かもっと素晴らしいみこころが実現するんだと、神さまを信頼していくことができます。

神さまが私たちを砕くことを喜んでおられるのなら、喜んで砕かれます。このようにして私たちは、「イエシュアの御姿に似ていく」プロセスを通ります。

CBN クリスマン放送局でシェア

ジェイ・コミスキー、CBN 副社長



9月8日と9日アシェルとベティーは、バージニアビーチのCBN放送局に招かれ、スタッフたちの前でメッセージし、色々な指導者たちと会いました。アシェルはCBN全スタッフ参加チャペルにてイエス様の再臨、イスラエル、神の御国について話しました。その後、2人でCBN従業員たちの質問に答えました。

CBNの掲げているビジョンは、イエスさまの再臨に世界を備え、地上に神の御国を築くということです。再臨はエルサレムで起るので、そこは地上の御国の都となります。

このメッセージが私にとって重要な点は、イスラエルとメシアニックの残された者たちを繋ぐ「ミッシングリンク」が再臨と御国を現実的な真実として捕える「鍵」となるということです。ヨハネ17章でイエスさまが執り成していることの一部は、CBNとリバイブイスラエルを通して答えられる「プラグイン式の接点」なのです。

アシェルとベティーは、CBNの会長ゴードン・ロバートソンと社長マイケル・リトルと昼食を共にし、個人的に分かち合う時間がありました。それは、エルサレムのオリーブ山へメシアイエスが帰って来られるための、地上の国々を共に整えていくパートナーとして、神さまによる「接点」を築いていく、喜びに溢れたひと時でした。

火曜日にはアシェルはCBNニュースのインタビューを受けました。18分間のインタビューを

ご 覧 下 さ い :

<http://www.cbn.com/cbnnews/insideisrael/2014/September/Is-the-World-Close-to-Armageddon/>

若いリーダーシップが成長

エディー・サントロ

アハヴァット・イェシュアの最も重要なゴールの一つは、若いイスラエル人指導者たちによる後継者を育てることです。私たちは将来のリーダーシップの召命を受けている人々と、彼らを弟子とし励ますために定期的に会合を開いてもうかなりの時がたちます。

6ヶ月前、これらの若者のもっと活発なリーダーシップの役割を演じていきたいという彼らの熱望により、彼らに指導する機会が与えられ、Congregationの生活に重要だと思ふプログラムを立ち上げるための集会の開始を望んでいました。彼らはこの集会を「Do It=やっしまえ」グループと名付けたのです。

6ヶ月後、このグループはCongregationにとって、とても現実的なインパクトを与えています。そしてもう、この子供たちのプログラムを強化し発展させるために関わっていく委員会もできているのです。そこには伝道に対する再認識があり、最近Congregation内にもっと多くのスモールグループ立ち上げていくことを決めました。これらの若者のうち2人が按手礼を受け、リーダーシップチームの一員として奉仕を始めました。

これら全ての現実的な「実」の向うには、若者たちがアハヴァット・イェシュアに対する「当事者意識」をより強く持とうとしているなか、一致、愛、ワクワク感といった概念が育っていつているのです。どうぞこの「Do It」グループを、祈りに憶えてください。このことは本当に実質的な方法で、Congregationを将来に向け変化させていつています。どうぞ、この重要なプロセスの中で私たちが自身を捧げていくうえで、大きな知恵と忍耐を必要としている私たち大人のリーダーたち全てのためにもお祈りください。

ポルトガルのユーヴァル

今週（9月25日～10月2日）、ユーヴァルは数々のメッセージと現地教会指導者たちとのミーティングのため、ポルトガル、リスボンへ出発します。息子のヨナダヴと出かけるユーヴァルのため、ポルトガルの信者たちがメッセージを通して祝福され、新しい関係が築かれるよう、お祈りください。

贖罪の日（ヨム・キップール）

今年もヤッド・ハシュモナは、5つのCongregationが贖罪の日(9月24日)にエルサレム地域で一堂に会するための集会場所を提供します。私たちが交わりを持ち、礼拝し、イスラエルの救いのために祈る、この集会のためにお祈りください。